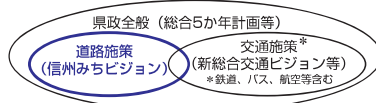


概要（背景と目的）

近年、道路に求められる役割が多様化するなど状況が変化中、時代の要請に応じた道路の整備や活用など、今後10年間のみちづくりの方向性を示すものとして「信州みちビジョン」を策定しました*。（計画期間2018～2027年度）

今後、県民の皆さまの道路事業への理解を深める際に活用するとともに、道路事業実施時の指針としていきます。

ビジョンの位置づけ



ビジョンの期間

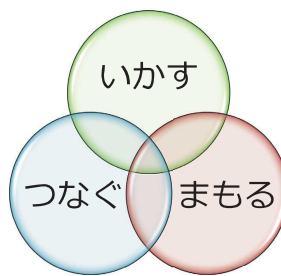
計画	期間	2013～2017年	2018～2022年	2023～2027年
総合5か年計画		→	→	→ (想定)
新総合交通ビジョン		→	→	→
信州みちビジョン		→	→	→

基本目標と基本方針

▶基本目標「つなぐ・まもる・いかす 信州のみちづくり」
（3要素をバランスよく進めていきます）

▶基本方針

- ・ **つなぐ**（自動車中心から多様な利用者重視の道路網へ等）
- ・ **まもる**（高齢者配慮強化、想定以上の災害も考慮へ等）
- ・ **いかす**（自然環境から地域資源、情報技術の活用等）



基本目標と基本方針

I 『持続可能で快適な暮らしを支えるみちづくり』

- (1)コンパクト+ネットワークに資する道路網の構築
- (2)低酸素社会を目指した道路整備
- (3)誰もが安心して移動できる道路環境整備



写真(右)
歩道等の要整備箇所

	整備効果	現状	概ね10年後 注:(カッコ)内は将来 ^{※2} の値
(1)	主要医療施設 ^{※3} 15分人口カバー率	約85%	(約87% 約3.5万人増)
	主要医療施設 ^{※3} 30分人口カバー率	約97%	(約98% 約2万人増)
(2)	照明LED化によるCO ₂ 排出量削減	10,176t-CO ₂ /Kwh	2,271t-CO ₂ /Kwh [約8割削減]
	道の駅へのEV充電設備 設置率	62%	100%を目指した設置支援 ^{※4} 実施
(3)	H24点検 通学路安全対策箇所整備率 ^{※5}	83%	100% + 必要箇所への対策

II 『県土の強靱化を担うみちづくり』

- (1)災害時の人や物資輸送の確保・早期復旧
- (2)災害対応の迅速化を目指した道路機能等の強化



写真(右)
緊急輸送路の整備例

	整備効果(緊急輸送路ネットワークについて)	現状	概ね10年後
(1)	緊急輸送路整備 ^{※2} により県災害対策本部 ^{※1} とつながる ^{※3} 防災拠点 ^{※4} の割合	約74%	約83%
	緊急輸送路整備 ^{※2} により県災害対策本部 ^{※1} とつながる ^{※3} 隣県 ^{※5} [県境]	5県 17路線 [85%]	5県 19路線 [95%]
	主要な道路施設点検実施率	H26から法定点検開始	5年毎に100%実施

III 『観光や産業の振興を進めるみちづくり』

- (1)産業の生産性や観光の周遊性を高める道路整備
- (2)観光・産業交通をふまえた安全・安心な道路整備
- (3)移動を楽しめるみちづくり



写真(右)
サイクリングロードの整備例

	整備効果	現状	概ね10年後 注:(カッコ)内は将来 ^{※2} の値	
			リニア開業	+関連道路整備
(1)	東京90分圏域 伊那谷人口カバー率	0%	約60%	約85%
	名古屋60分圏域 伊那谷人口カバー率	0%	約46%	約59%
	高速道路・地域高規格道路 15分アクセス圏人口カバー率	約70%	(約80%)	
	国際港湾180分カバー圏の主な工業団地数	51か所	(63か所)	
	国際線定期便空港90分カバー圏の主要観光地数	0か所	(108か所)	
(2)	公衆無線LANの道の駅への設置率	55%	100%を目指した設置支援 ^{※2} 実施	
	道の駅(県管理)のトイレ洋式化率	60%	概ね100% + 必要箇所への対策	

*「信州みちビジョン検討委員会」の議論に加え、意見交換会やパブリックコメントなど県民意見もふまえて策定